

# YPUドリームアドベンチャープロジェクト2016選考結果



選考の結果、A部門7件・B部門1件のプロジェクトが採択されました。

○A部門	
<p>やまぐちの美味しいものしっちゃん～？ 広めよう☆やまぐち農作物プロジェクト 栄養学科 2年 柳井 晴菜</p>	<p>【プロジェクトの目的】 山口県の農家や特産物をPRし、様々な人に認知してもらい地産地消の推進に貢献する。また、SNSやフリーペーパーなどを用いて山口県立大学の教員・生徒以外の方にも情報発信し、農作物の新たな情報から農作物に興味をもってもらい、食べてもらうきっかけをつくる。</p>
<p>K県大生とHハロウィンパーティー ～みんなが仲良くなれる魔法のマント&amp;ランタンづくり～ 文化創造学科 1年 重岡 美月</p>	<p>【プロジェクトの目的】 本企画は、地域の子供たち(小学校低学年とその兄弟、保護者等、計30人程度)が、大学見学をしながら、仮装マントづくりや本場のハロウィンの話を聴いたり、かぼちゃランタンづくりなどに挑戦し、大学生と交流を深めるイベント。これによって、①子供たちに大学生活を体験してみたい、②本場のハロウィンに触れ、文化への関心を高めて欲しい、③企画運営を通し、大学生も実践的な学びをしたい。</p>
<p>YPUオリジナルグッズ 「BrianTea～フランチー～」の開発 国際文化学科 4年 山根 沙千</p>	<p>【プロジェクトの目的】 YPUオリジナルグッズ「BrianTeaフランチー」(小野茶や徳地米をベースとした山口の文化を語るフレーバーティー)を開発し、山口県立大学のイメージを具現化する。グッズ制作過程において県内各地のお茶をめぐる生産者・団体・企業等との地域連携を深め、グッズを通して山口県立大学の魅力を多言語でアピール、発信することを目的とする。</p>
<p>写真で広がる地域コミュニティ 文化創造学科 1年 中村 菜摘</p>	<p>【プロジェクトの目的】 大学と大学周辺地域を連携させるには私たち大学生と地域の方々はお互いをよく知ることが必要だと考える。そのためには、大学生が実際に地域へ足を運び、地域の方と積極的にコミュニケーションをとる必要がある。本プロジェクトでは、写真を通して地域の方々とコミュニケーションを図ることを目的としている。</p>
<p>マンドゥルジャ！モッチャ！日韓料理交流会プロジェクト 国際文化学科2年 辰川 倫</p>	<p>【プロジェクトの目的】 本校の協定校である慶南大学に語学文化研修に参加した際に韓国の方が生活する中でどのような家庭料理を食べているのかが気になった。また、自国の家庭料理の作り方や歴史的背景を他者に伝えることができない人が多いと感じた。そこで、参加者が自国の家庭料理についても学んだり、実際に作ったりすることで、他国だけでなく自国のことも学ぼうとするきっかけを作る。</p>
<p>広げる地域の輪 スイーツ開発プロジェクト 栄養学科3年 大久保 愛海</p>	<p>【プロジェクトの目的】 ①大学で学んだ栄養の知識を活かしてスイーツの改良・開発について学ぶ。 ②実際にスイーツを開発することでさらに知識を深める。 ③多くの人に山口県内の農産物について知ってもらう。 ④山口県立大学を多くの方に知ってもらう。 ⑤山口県特産の農産物を使用し、山口県の農業を応援する。</p>
<p>新発見 山口のなかの韓国：在日コリアンと日本人の交流の歩みと展望 in 下関 国際文化学科4年 原田 英莉</p>	<p>【プロジェクトの目的】 未来の日韓関係を担う大学生が、日韓交流の玄関口である下関で「在日コリアンと日本人の交流」のフィールドワークを実施し、日韓交流の歩み、山口県における位置づけ、今後の交流の在り方について探求する。</p>
○B部門	
<p>クロスロード～人が、情報が、地域がクロスする場づくりを目指して ～YPUジャントin 山口企画 国際文化学科4年 松岡 優衣</p>	<p>【プロジェクトの目的】 海外フィールドワークで学んだ成果をふまえ、地域の方々、また山口県立大学の学生たちが交流する場を作ることで、山口市に人を集め、情報・知識を共有する。そして、私たちの持つ若い力で地域の盛り上がりを取り戻すことに努める。キーワードは山口に人を集める人のクロス、山口と昌原を知る情報のクロス、地域の盛り上がりを取り戻す地域のクロスである。この目的を達成するためにYPUジャントin山口を開催する。</p>